



今年も国際森林年。世界中で緑喪失の危機が叫ばれています。

今、世界の森林は二十八億ヘクタール程ですが、私達が気づかない間に、毎年、日本の国土の約半分に当たる千九百万ヘクタール前後が世界の各地で失われているそうです。このままいくと、何百年、何千年の年月が育んできた地球上の森林の約五分の一が、二十一世紀には消えてしまうといわれています。

国土の七〇％が森林に覆われている日本でも、近年、都市部・山村を

放置できない大問題です。

惨状が伝えられるアフリカの飢餓も、森林の破壊が大きな原因といわれています。失われ、荒れつつある森林を守り、取り

戻す為に、世界各地でいろいろな運動が繰り広げられているようですが、私達の住む熊本県では緑の保全、育成の為にどのような施策がとられているか、緑の現状はどうなっているか、レポートしてみました。

# 緑あふれる郷土づくり。

## 緑の先進県熊本を考える

問わず、緑は開発の波に押されて減少する一方でした。山村の過疎化や林業の不況等で、森林が手入れ不足になり、荒れてきているそうです。水を育み、災害を防ぎ、新鮮な空気が木材・きのこ・山菜等を生み出し、私達の生活に潤いと憩いを与えてくれる森林の消失は、私達にとっては



るか、レポートしてみました。緑の基地としての熊本。具体的なプランが次々に実行に移されています。熊本県では、二十一世紀を目指した新しい熊本づくりの為に、総合的なシナリオが作られています。その中で、全県公園化構想ともいえるべき「緑の十カ年計画」が、潤いとゆとりと安らぎに満ちた豊かな人間生活の基盤づくりの一環として打ち出されました。一昨年の十一月に、全国に先駆けて緑の基地宣言をし、グリーンウォッチングを各地に向けて発信した熊本県として、郷土の未来像の中に明確な形で緑を位置づけてい

る点は、当然といえ、大いに評価できます。緑を創り広めて、潤いに満ちた郷土を築く為、「緑の三倍増計画」や、その実現の為の「くまもと緑の三〇システム」など、具体的なプランが次々出され、実行に移されているのは何とも喜ばしい限りです。「熊本が何が変わりだしたかな」という実感がしてきます。中曽根首相も熊本県の緑の三〇システムを評価されているとのこと、県民として本当に誇りに思います。

子どもたちが誇りに思えるような緑の街づくり。一人ひとりが努力したいですね。

熊本が変わりだした実感といえは

ママさん特派員  
井上 敏子さん

### 県政ルポ

### ママさんの



先日、空港から熊本市に至る県道熊本益城大津線(いわゆる新空港道路)を車で走った時もそうでした。舗装された上下四車線の車道は、さぞんか、さつき、平戸つつじが植えられた中央分離帯で区切られ、左右の歩道との境をなすグリーンベルトには、県木の楠と平戸つつじが並木をなしていました。周囲は環境規制地域で、ゴテゴテした広告

物や建物も無く、心が落ち着くような感じでした。やがてこの楠が大きく育ち、枝を広げるように茂ったら、熊本を訪れる県外の方々に、「美しい緑の基地くまもと」の好印象をきつと与えてくれる事でしょう。このような緑にあふれた道路や公園、広場、まちなみ、河川など、すべて私達が待ち望んでいたものばかりです。私達の子供達の時代にも緑化については真剣に考え、熊本のみならず心ならずも豊かな自然に囲まれた安らぎのまち、住む者が誇りに思う緑の文化のまちとなるよう、取り組んだものでした。

「全国植樹祭」や「もりの文化展」。人と自然について考える絶好の機会です。

五月十二日には、阿蘇町にある、「阿蘇みんなの森」を舞台に、全国植樹祭が開催されました。そしてこれを記念して、県内各地でさまざまな人々の手により、いろいろな植樹計画や、みどりのフェア、環境美化活動などが実施されるそうです。熊本市の監物台樹木園でも、五月の一カ月間、「もりの文化展」が、園内や日頃一般には開放されない重要文化財の監物櫓などを無料解放して開かれたので、早速、私も出かけてきました。萌えるような楠若葉に囲まれた熊本城の一部に樹木園があるので、この季節のお城の緑はたといえようもなく瑞々しく美しく、心が洗



われる想いがします。熊本を一番美しく感じる時です。「もりの文化展」では、園内に咲き匂う花々をめで、樹々と語り合う人々の姿が、あちこちに見られました。ご案内頂いた林業振興課の岩野さんから、森林のしくみやはたらき、熊本の林業の現状についてお話をうかがいました。「人間生活にとって緑がいかに大切か知ってもらい、自然保護について考えてもらう」事を狙いとされたこの文化展。実際に樹木園の緑に包まれて緑についての展示物を見たり、説明を聞いたりしているうちに、緑の必要性を肌で感じた思いました。

世代から世代へ受け継ぐ。大地に根をはった緑の郷土づくりを。

人間にふさわしい快適な環境づくりは、行政の力だけではなく、地域住民が自分達の郷土をより良くしようという連帯意識をもって初めてできるもの。植えられた木々が十年、二十年と長い年月をかけて土中にしっかりと根を張り、緑の枝葉を一つ一つ広げていくように、緑あふれる豊かな郷土づくりも、世代から世代へと長い年月をかけて受け継いでゆき、しっかりと根の張ったものにしてゆきたいものです。

「みどり」といえば熊本県が連想されるといわれる日が来るのも、そう遠くないのでは……と思うたび、ついでにうれしくなってしまうのは私だけでしょうか。

